









製造業の売上高 DI 値は持ち直したものの、非製造業はさらに悪化

8月の情報連絡員報告によると、悪化傾向にあった売上高 DI 値がマイナス 10 台前半まで持ち直したものの、非製造業についてはマイナス 30 台まで悪化した。収益状況 DI 値については、製造業、非製造業ともさらに悪化しており、厳しい景気の実態を示している。今月は記録的な猛暑の影響を伝える声が様々な業界から報告されており、来客数が大幅に減少したとする声が多い一方で、夏物商品の売上が大幅に増加したとする報告も多かった。

【製造業62人、非製造業、88人、計150人の集計】

前年同月比の DI 値

項目	全産業	製造業	非製造業
	前年同月比	前年同月比	前年同月比
売上高	 -26.7	 -12.9	 -36.4
在庫数量	 -15.1	 -11.3	 -18.8
販売価格	 -18.0	 -12.9	 -21.5
取引条件	 -14.6	 -16.1	 -13.7
収益状況	 -39.3	 -33.8	 -43.2
資金繰り	 -26.7	 -24.2	 -28.4
設備操業度	 -17.7	 -17.7	—
雇用人員	 -18.6	 -16.1	 -20.5
業界の景況	 -44.7	 -37.0	 -50.0

※DI (Diffusion Index) 値とは、景気の動きをとらえるための指標です。(−100 ≤ DI 値 ≤ 100)

DIの計算方法…増加・好転と答えた割合 − 減少・悪化と答えた割合

【例:調査数「20」のうち好転が「4」、不変が「6」、悪化が「10」とした場合…(4−10)/20×100=−30】



30以上



10以上
30未満



−10以上
10未満



−30以上
−10未満



−50以上
−30未満



−51以下

平成24年
8月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	中華麺製造業	猛暑のため取引先である飲食店の売上が減少している。このため、売掛金の回収が遅れるケースも発生している。
	帽子製造業	記録的な酷暑が続いているため、紫外線対策や熱中症予防のための帽子の有効性が広く認知されてきた。帽子全般の売上が好調であるが、特に婦人物の広ツバ型帽子が注目されている。
繊維・同製品	洋服製造業	季節商品の受注が少しずつ入っているものの、例年並みの受注量の確保は困難となっている。加工賃の下落や最低賃金の上昇、消費税の増税等、先行きの不安定要素が山積している。
	ニット製品製造業	猛暑の影響で、秋冬物が全く動いていない。
	織物製造業	現在の厳しい状況をひたすら耐えるが続いている。
	木材製造業	受注量の減少が続いている。業界の景況は悪化しており、好転の兆しも見えない。
木材・木製品	建具製造業	新設住宅着工件数は前年比で増加していたが、7月以降は減少に転じた。都市内では官公需、民需とも盛り上がり欠ける。また、秋以降の期待感も感じられない。
	紙製品製造業	数値上の景況は好転しているが、震災の影響を受けた昨年との比較であり、景気動向は良好とはいえない。
紙・紙加工品	印刷加工業	売上高は低い水準で安定している。
	印刷業	組合で7月初旬に実施した売上動向調査によると、7月から9月の売上予測は、従業員10人以上の事業所では昨年を上回っているが、従業員9人以下の事業所では前年比90%以下と予測する結果となった。組合員の6割を超える従業員9人以下の小規模事業所の売上の低下が続いており、規模による格差の拡大が懸念される。
		自動車や電化製品関係のラベル印刷の売上が、大きく落ち込んだ。
化学ゴム	ゴム製品製造業	円高が続く厳しい状況の中で、組合員一社が受注の減少を理由に自己破産した。組合員各社は経費削減に努めていたが、人員の削減に手をつけなくてはならない状況に追い込まれている。
	石油製品製造業	石油製品の原料となる基油の価格は上昇したが、製品価格への転嫁が遅れたため、収益状況が悪化した。
	プラスチック製品製造業	夏季休暇の前は先行納品が必要であったため生産量が増加したが、夏季休暇後はその反動から生産量は低下した。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	東北地方では景況が良いとの情報が入るが、都市内では厳しい状況が続いている。
		売上は前年同月比で増加となっている。しかし、近隣県の業者との価格競争となっており、市況は厳しい。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	エコカー減税により自動車関連の需要は依然として堅調であったが、建設機械については中国市場の低迷により、大規模な生産調整が発生している。震災の復興需要は勢いが無く、期待は薄れつつある。
	ダイカスト製品製造業	前年同月比での売上は増加、今年7月との比較では減少となっている。
	缶製造業	売上は前年同月比で5%増となったが、一昨年の実績には達しておらず、厳しい状況に変わりはない。今後、東北の復興需要として、塗料用の缶の売上が増えることを期待している。
	鋳物製造業	受注量の減少が続いている。また、8月は夏季休暇があり稼働日数が少ないため生産量は非常に少なかった。
	鍍金加工業	前年同月比の売上は減少となった。円高による部品の海外調達の流れが止まらない。大口ユーザーからの値下要請が続くが、電気料金が値上げされている中で、状況は非常に厳しい。

鉄鋼・金属	金庫製造業	一社、組合に新規加入した。
	建築金物製造業	依然として先行きの不透明な状況が続いている。
一般機械	遊技機製造業	前年比で売上げは僅かに増加しているが、春先に比べ鈍化している。組合員数社の業績は好調ではあるが、組合員間の格差が広がっている。
その他の製造	スポーツ用品製造業	野球用品市場は景気が厳しくとも「底堅さ」を維持してきたが、昨年ごろより、その「底堅さ」に変化が現れている。野球人口の減少を原因として、市場構造が変化する可能性がある。
	工業塗装業	弱含みのまま推移している。
	ガス圧接業	稼働率は上昇しているが、受注単価が安定しない。現在の受注量では労働力不足の状況になりつつあるにもかかわらず、受注単価が引き合わないため、収益率が好転しない。資金繰りも悪化している。
	ネームプレート製造業	全体的に厳しい状況が続いている。

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	ニット製品卸売業	前年同月と比較して景況は変わらず、依然として低迷している。このところ珍しく、組合からの脱退者がいないものの、新規の組合加入者もいない。
	理容用品卸売業	組合員間の親睦を高めるため、レクリエーションを企画したところ、組合員やその家族、従業員等が多数参加した。
	青果卸売業	青果の仕入高は前年同月比で87.7%となった。
	眼鏡卸売業	消費税の増税を始めとして、景気の悪化材料が山積する中で、今後の見通しが立たない状況が続いている。
	美容用品卸売業	美容用品メーカーが中国各地に進出しているが、最近の国際情勢の悪化が生産体制に影響をもたらすことが懸念され、仕入価格が高騰する事態を憂慮している。
	医薬品卸売業	7月と同様に売上の減少傾向が続いている。
	紙卸売業	印刷、出版向けの需要が減少している。震災後、紙の価格が値上げされた際に輸入紙が定着したが、国内の製紙メーカーはスポット的に大幅値下げで対応している。これが組合員に悪影響をもたらしている。
	電設資材卸売業	猛暑が続いているが、エアコン等の季節商品の需要は伸び悩んでいる。昨年の家電エコポイントによる需要の先取りの影響と思われる。
	玩具卸売業	昨年は震災後、絆を求める意識が強まり、家族で遊べる玩具の売上が伸びた。しかしながら、今年はテーマパークを始めとして行楽地に出向く家族が増え、玩具への志向も弱まったことから、夏休み商戦は不調に終わった。
	木材卸売業	スポット的な小口の取引はあるものの、全体としての荷動きは低調である。販売価格は底値が続いているが、今後逆ざやの発生が懸念されている。
	電線卸売業	工事向け電線はソーラー発電用や耐震工事用の製品の受注量が増加しているが、一般建設向けや電気機器向けの状況には変化がない。なお、自動車向けの製品は回復しつつある。
	再生資源卸売業	7月後半から、国内の古紙市況が下がっており、組合員は古紙の買入価格の引き下げに苦労している。また、古紙の輸出価格も急落しているが、国内の製紙メーカーからの受注が減少しているため、輸出に頼らざるを得ないのが現状である。
	食品卸売業	8月は夏休み期間であり、学校給食向けの売上はほとんど無い。
	食器卸売業	消費の低迷が続く中、販売価格が下落している。収益の悪化が著しい。
	銅製品卸売業	需要が減少している。
小 売	鶏肉・鶏卵小売業	猛暑の影響により売上は減少しているが、仕入価格が下がっているため収益状況はやや好転している。
	豆腐小売業	組合員の高齢化と売上の不振により廃業者が増加する中で、現在準備している50周年事業が、組合に対する帰属意識の向上に繋がるように努めたい。
	包装材料小売業	景況の悪化に伴い、廃業に踏み切る組合員が現れている。今後、組合の脱退者の増加が懸念される。

小 売	電器製品小売業	猛暑の影響でエアコンの売上は久しぶりに活況を呈した。冷蔵庫も好調であったが、流通在庫はだぶつき気味となっている。テレビの売上不振が続いており、売上全体としては微増に留まった。組合員は自助努力で経営を維持しているのが現状である。
	眼鏡小売業	猛暑の影響で各組合員とも来客数が減少している。また、パソコン用メガネが話題になった他、サングラスの動きも良かった。
	中古自動車小売業	7月から好転の兆しが見え始めている。今年も後半に入ったがV字回復を期待している。
	古書籍小売業	景況感は非常に厳しい。猛暑も景況悪化の一因になっている。
	衣料小売業	7月と比較して景況は悪化した。順調であった受注量は8月に入り極端に減少した。9月以降の回復を期待している。
	酒小売業	組合員の廃業や組合からの脱退が止まらない。
	文具小売業	8月は営業日数が少なく売上は見込めない月ではあるが、猛暑による来客数の減少も厳しかった。また、通販で商品を求めるユーザーが増えていると思われる。
	食品小売業	猛暑の影響から夏物商材の動きは活発であったが、全体としての売上は伸び悩み、前年比でマイナスとなった。青果物は安値であったことから売上増加を期待したが、期待はずれに終わった。猛暑の中、家庭での調理が減っていることが原因と思われる。
	家具小売業	猛暑により来店者が少なく、休業状態となっている。
	米穀小売業	震災後、米の流通には大きな変化があり、大手企業の買占め等もあって低価格米が著しく不足した。今年の米の生産量は豊作基調であり、仕入れ価格も下がることが予想され、幾分、収益状況も改善されることと思われる。
青果小売業	猛暑により消費者が買い物をする時間帯が遅くなっている。販売出来る時間が実質的に短くなっていることが売上の減少に繋がっている。また、加熱調理が必要となる野菜が、消費者に敬遠されている。	
商店街	銀座	猛暑にもかかわらずイベント等の開催の際には多くの人出で賑わった。特にロンドンオリンピックのメダリストによるパレードは圧巻であった。ただし、バーゲンセールを開催しても必ずしも集客には繋がっていない模様である。
	赤坂	過去において企業では夏季休暇を一斉に取得していた。このため、飲食店等において来客が減るのはお盆の時期に限られていたが、現在では、社員それぞれが交代で休暇を取得するため、現在は来客が減る時期が長くなっている。
	仙川	酷暑が続いているため、商店街への来客が全体的に落ち込んだ感がある。商店街の専用駐車場の利用率が20%ほどマイナスとなった。
	目黒	前年比で比較すれば、季節商品の売上は増加している。
サービス	複写業	価格の下落により収益状況は厳しく、市場調査や新規顧客の開拓を進めている。
	廃棄物処理業	夏期休暇により、事業者等からの廃棄物が減少した。
	飲食業	夏期休暇の影響により、来客数が減少した。
	自動車整備業	国の助成措置により新車販売が好調であることが、自動車整備業界の売上増加にも繋がっている。
	クリーニング業	クールビズが定着し、ノーネクタイで上着を着ないことが当たり前となった。当然、クリーニングの需要が減少している。
運 輸	貨物自動車運送業	原油価格が上昇しており、9月以降に燃料価格が上昇することが予想されることが、先行きの不安定要素となっている。飲料関連の荷動きは引き続き活発となっている。 稼働日数が少ないため、毎年この時期の売上は低調となっている。対前年比ではやや動きがあるものの、売上が増加したと言えるほどではなかった。
	港湾運送業	時速8km以下で通過するトラックとコンテナの放射線量を測定できる据置型の放射線検知器が、東京港の品川埠頭に設置された。
建 設	管工事業	消費増税により駆け込み需要の発生が予想されるが、需要の前倒しに過ぎない。
	基礎工事業	東日本大震災の復興事業に関しては、復興工事の発注者である行政の準備不足や組合員の技術者不足という二つの原因により、具体的に進展していないのが現状である。
	内装工事業	震災後受注量は大幅に減少したが、依然として回復の見込みが立っていない組合員もいる。

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
繊維・同製品	製粉業	今秋以降、麦の流通制度についての検討委員会が再開される。課題を整理するとともに、検討会の人選についても、制度を十分に理解している者を選任するようにしていただきたい。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	原材料価格は高止まりしており非常に厳しい状況にある。経費節減などの自助努力には限界があり、何らかの支援策を講じていただきたい。
	鍍金加工業	1日でも早く、景気と円高への対策を実施していただきたい。
	建築金物製造業	景気対策や雇用促進策を早急に講じていただきたい。
化学・ゴム	ゴム製品製造業	海外進出を図る企業に対して融資制度の拡充や補助金の交付を実施していただきたい。
小 売	青果小売業	電気料金の値上げや予定されている消費税の増税が実施された場合、零細事業者の多い青果小売業には致命的な影響があると思われる。中小零細事業者が生き残れるような施策を講じていただきたい。
	豆腐小売業	景気対策を最優先で実施していただきたい。
	鮮魚小売業	消費税率の引き上げには反対するが、仮に増税された場合には外税方式としていただきたい。
	米穀小売業	米の生産者に対し、銘柄米の作付けにこだわらず、ニーズのある外食産業向けの廉価な品種の生産にシフトしていただきたい旨を伝えていただきたい。
	自動二輪小売業	都議会自民党の都議に対し、自動二輪車のコインパーキングを新宿、渋谷、池袋等の繁華街に設置していただきたい旨を要望した。
商店街	赤 坂	休日の増加は売上減少につながる。これ以上祭日を増やすことは控えていただきたい。
サービス	複写業	中小企業支援策を引き続き実施していただきたい。
	公衆浴場業	本年度で東京都のクリーンエネルギー化や耐震化に対する補助金が終了するが、来年度以降も継続していただきたい。
商店街	銀 座	インターネットへの写真投稿を目的に、飼い猫を炎天下の中で、道路標識に載せて、人々を集めている人物がいる。他の繁華街でも問題になっているようだが、動物愛護の観点からも、何とか注意していただけないだろうか。